

学長定例記者会見要項

日 時：平成29年12月7日(木) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. 教授の着任について
2. 独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部との相互協力の協定締結
3. 県内初「やまがた食育カルタ」の制作に協力しました
4. 廃校を利用した農作物栽培試験で冬期間の試験研究に本格着手
5. フラスクと東京化成工業、有機・無機半導体材料の製造に関する委託契約を締結

お知らせ

1. 学生の事故に係る総合対策本部の対応状況について
2. 教育セミナー「山形での学びを通じたモンゴルでの教育再生」を開催します
3. 第8回多文化交流コンサート「山形から世界へ」を開催します
4. 理学部卒業生による「マリモ講演会」を開催します
5. やまがた夜話の開催について

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成29年12月21日(木) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見(12月7日)発表者

1. 教授の着任について

学 長

こやま きよひと
小山 清人

2. 独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部との相互協力の協定締結

独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部 本部長 高村 誠人
学術研究院 教授(国際事業化研究センター長) 小野寺 忠司

3. 県内初「やまがた食育カルタ」の制作に協力しました

山形県栄養士会 会長

学術研究院 教授(食教育・健康教育)

地域教育文化学部 食環境デザインコース2年

//

にしむら えみこ
西村 恵美子
おおもり かつら
大森 桂
おぼた なみ
小幡 南実
たかはし はるか
高橋 遥

4. 廃校を利用した農作物栽培試験で冬期間の試験研究に本格着手

学術研究院 准教授(東北創生研究所担当)

山形大学産学連携研究員

むらまつ まこと
村松 真
いしおか ひろあき
石岡 浩明

5. フラスクと東京化成工業、有機・無機半導体材料の製造に関する委託契約を締結

株式会社フラスク代表取締役社長

こもだ たくや
菰田 卓哉

平成29年12月7日
山形大学

教授の着任について

山形大学では、平成27年4月からすべての教員が学術研究院に所属し、各学部・研究科等における教育課程の担当として学部・研究科等に配置されております。
平成29年12月1日付で教授が1名着任しましたので、お知らせします。

■ 渡辺 昌文（わたなべ まさふみ）

採用年月日：平成29年12月1日

専門分野：循環器・呼吸器・腎臓内科学

（お問合せ先）
総務部人事課 菊地
電話 023-628-4023

平成29年12月7日
山形大学

独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部との相互協力の協定締結

山形大学は、独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部と相互の緊密な連携と協力のため、連携協定を締結いたしました。

独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部と国立大学法人の間では、初めての協定締結となります。

1. 目的

相互の緊密な連携と協力により、東北地域の活性化のための人材育成を行い、もって地域社会の発展と産業の振興に寄与することを目的とする。

2. 連携事項

- (1) 人材育成に関すること
- (2) ベンチャー支援や創業支援に関すること
- (3) 販路開拓支援に関すること
- (4) その他、目的を達成するために必要な事項に関すること

3. 覚書締結日

平成29年12月 7日（木）（※期間は、3年間。以後1年更新。）

（参考）

独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部
企画調整部企画調整課
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目6番1号
TEL:022-399-6111 FAX:022-399-9015
HP : <http://www.smrj.go.jp/tohoku/>

（お問合せ先）

山形大学エンロールメント・マネジメント部社会連携課
電話 023-628-4843

独立行政法人中小企業基盤整備機構東北本部と 国立大学法人山形大学の相互連携協定について



2017年12月
山形大学 × 中小機構 東北
相互連携協定締結

3つの使命
「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」

産学官連携推進本部

- ・教育研究成果の社会的実現に向けて企業や自治体等の連携を推進し、地域社会経済の活性化に貢献
- ・山形大学の知的資産等を活用・マネジメントし、実効性あるシステムの構築等を一元化

国際事業化研究センター

- ・山形大学のシーズ技術を発掘、研究支援、活用し、地域ならではの課題解決に向けたイノベーション創出を行い、技術移転を促進することで、山形大学を核とした地方創生、雇用促進に貢献する。

☆主な連携内容

- 人材育成
 - ・中小企業大学校への山形大研究者の講師派遣
 - ・連携による人材育成事業の実施 等
- ベンチャー・創業支援
 - ・山形大研究者と企業等とのマッチング
 - ・山大発ベンチャーへの専門家による経営支援
 - ・大学発ベンチャーとVC等のマッチングを支援。事業化に向けた資金調達等の機会創出
- 販路開拓支援
 - ・ジェグテックを活用した山形大研究シーズの情報発信
 - ・ジェグテック情報ボードを活用した企業等へのニーズ発信



- 地域連携起業家育成による地域活性化
- 県境を越えた連携による東北地域の活性化

中小企業の成長を一貫してサポート

中小機構

(正式名称: 独立行政法人中小企業基盤整備機構)

中小機構は、国の中小企業政策の中核的な実施機関として、起業・創業期から成長期、成熟期に至るまで、企業の成長ステージに合わせた幅広い支援メニューを提供。また、地域の支援ネットワークとして、地方自治体や支援機関、金融機関、政府系機関と連携しながら中小企業者を支援。

- ・人材育成 中小企業大学校を展開し中小企業支援担当者、中小企業の経営者・管理者等に対し高度専門的な研修を実施。
- ・全国32ヶ所でインキュベーション施設を展開。起業家の育成や新たなビジネスを支援。
- ・ファンド事業 (ファンド組成数248件/IPO 184社)
- ・ジェグテック (ビジネスマッチングサイト)
海外企業約2,500社、大手企業約350社、国内中小企業約4,800社が登録。国内外の企業にアピールが可能。

平成29年12月7日
山形大学

県内初「やまがた食育カルタ」の制作に協力しました

県内初、遊びながら楽しく学べる「やまがた食育カルタ」が出来上がりました。公益社団法人山形県栄養士会から依頼を受け、食環境デザインコースの2年生が、一枚一枚の読み札の言葉と絵札のデザインを丁寧に仕上げました。

今後、このカルタは、同栄養士会が地域の高齢者や子どもを対象に実施している様々な食育推進事業で活用することが計画されています。また、同栄養士会事務局で貸し出しも行っていきます。

◇カルタ制作の経緯

大森桂教授と非常勤講師の西村恵美子氏（山形県栄養士会会長）が担当する、地域教育文化学部の授業科目「学校栄養教育論」で、食環境デザインコース2年生35名の学生たちが食育の教材としてカルタを制作しました。県栄養士会から、そのカルタの製品化の提案と制作協力の依頼を受け、学生たち有志15名が「やまがた食育カルタ」の制作に協力したものです。学生たちは、授業外の時間を使って、授業で課題として制作した学読み札と絵札それぞれについて、言葉の精査やデザインの描き直しなど、製品としてさらに質を高めるための作業を行いました。



◇カルタの概要と主旨

「あ」から「ん」まで1枚1枚、山形の食文化の紹介や食生活のポイントを分かりやすく示しました。絵札は全て学生の手描きのイラストが図案となっており、温かみあふれるカルタです。食育を通して、生きるための食の大切さ、地域の食環境を守ること、そして何よりも歴史ある山形の食文化を伝承すること等、多くの思いが詰まった内容になっています。幼児期の食育から地域の高齢者サロンまで、幅広い年代の方を対象にご活用頂けます。

◇カルタの活用例

平成29年10月14日には、金井地区交流センターで開催された栄養士会主催の料理講習会・交流会において、カルタ制作に関わった学生2名が、地域の高齢者と一緒にカルタを使って交流しました。今後、各地で開催される同会の事業で、カルタの活用が予定されていますので、ぜひご参加下さい。当カルタに関する情報は、山形県栄養士会のホームページをご覧ください。同会事務局で随時、貸出を行っています。



(お問合せ先)
山形県栄養士会・西村恵美子
Tel. 023-633-4727
山形大学学術研究院 教授 大森 桂 (食教育・健康教育)
Mail: omorik@e.yamagata-u.ac.jp

平成29年12月7日
山形大学

廃校を利用した農作物栽培試験で冬期間の試験研究に本格着手

山形大学東北創生研究所では、株式会社庄司製材所と共同で、平成28年10月から、豪雪地帯・過疎地域の廃校になった中学校の教室を活用し、冬期間及び高齢者を対象とする農作物栽培システム構築の試験研究を実施しています。これまでの試験研究成果に基づいて、平成29年10月から、冬期間の本格的試験研究を行います。

1 研究の目的・概要

本研究の目標は、豪雪地帯・過疎地域の廃校（旧真室川町立及位中学校：真室川町大字大滝64-1）を活用して、冬期間及び高齢者を対象とした農作物栽培システム構築について試験研究し実用化を図ることです。

本研究は、株式会社庄司製材所と山形大学東北創生研究所の共同研究として行っています。さらに、本研究を推進するために、民間企業・組織、個人（農家）、地方自治体（2町村）、本学教員等により「真室川町廃校利活用研究会（16団体・個人／21人）」を組織しています。また、研究に必要な資材は、できるだけ地域で産出される地域材を利用し、地域産業に少しでも貢献できるように考えています。

2 栽培実験の内容と成果

(1) 第1期試験研究の成果(H28.10.1～H29.9.30)

第1期では、大葉について、廃校での最適栽培環境構築について研究しました。その結果、植え付け本数24本(株間20cm)、光量4,000lm(可変型光源)、反射シート使用の場合の生産量が最も多く最適環境であることが分かりました。(次期研究の基礎)

(2) 第2期試験研究の取り組みと期待される成果(H29.10.1～H30.9.30)

第2期では、第1期の成果を土台に、大葉栽培試験棟(1教室)、柑橘類等栽培試験棟(1教室)、大葉栽培実用化棟(2教室)を設け、次の研究テーマについて冬期間の試験研究を行います。

- ① 植物育成のための最適環境構築の研究（大葉栽培試験棟・柑橘類等栽培試験棟）
- ② 高齢者の理想的労働環境条件構築の研究（大葉栽培実用化棟）
- ③ 効率的かつ合理的な栽培・収穫・出荷方法の構築（大葉栽培実用化棟）
- ④ LEDライトと有機ELライトの植物育成有効性比較の研究（大葉栽培試験棟）

これらの研究により、①冬期間農作物栽培環境の構築、②雪国型周年農業の構築、③新たな高齢者農業の構築、④新たな就労の場の構築、⑤再生可能エネルギー有効利用方法の構築、⑥廃校利活用方法の構築、⑦本格的高齢化社会の構築、⑧農山村再生方法の提案等が期待されます。

(問合せ先)
学術研究院 准教授 村松 真 (東北創生研究所)
電話 023-695-6228
E-mail : mm2009@human.kj.yamagata-u.ac.jp

(参考)

第1期で設置した比較対象試験区と大葉の収穫量実績

(栽培収穫期間：平成29年5月11日～10月6日／収穫回数：14回)

試験区名	植え付け本数	人工光の強弱	反射シートの有無	大葉の合計収穫量 (g)	備考	
1	A	24本 (株間20cm)	無し	無し	1,248.72	7位 (1-Bの2.60倍)
	B	12本 (株間25cm)	無し	無し	480.40	8位
2	A	24本 (株間20cm)	LED蛍光灯 (4000 lm)	無し	2,729.63	3位 (2-Bの1.21倍)
	B	12本 (株間25cm)	LED蛍光灯 (4000 lm)	無し	2,265.16	5位
3	A	24本 (株間20cm)	LED蛍光灯 (4000 lm)	有	3,138.88	1位 (3-Bの1.26倍)
	B	12本 (株間25cm)	LED蛍光灯 (4000 lm)	有	2,484.01	4位
4	A	24本 (株間20cm)	LED蛍光灯 (6900 lm)	有	3,086.35	2位 (4-Bの1.44倍)
	B	12本 (株間25cm)	LED蛍光灯 (6900 lm)	有	2,137.88	6位
合計	A	24本 (株間20cm)			10,239.58	(Bの1.39倍)
	B	12本 (株間25cm)			7,367.45	
	計				17,607.03	

※ 大葉の収穫では、幅約11cm以上のものを収穫した。



1 研究のテーマ・目的

(1) テーマ

豪雪地帯・過疎地域の廃校を利用した冬期間及び高齢者農作物栽培システム構築のための試験研究

(2) 目的

豪雪地帯・過疎地域の廃校を利用し冬期間及び高齢者を対象とした農作物栽培システム構築の試験研究と実用化

2 実施体制及び協力支援体制

(1) ㈱庄司製材所との共同研究

- ① 「豪雪地帯・過疎地域における農作物栽培による冬期・高齢者向け廃校利用システム構築に関する研究」
- ② 研究契約締結年月日:H28,9,30
- ③ 研究期間:(第1期)H28,10,1~H29,9,30
(第2期)H29,10,1~H30,9,30

(2) 真室川町廃校利活用研究会の実施

- ① 設立年月日:H28,10,21
- ② 構成メンバー(16団体・個人/21人)
民間企業(13名・内1名NPOにも所属)
金融機関(1名)・行政(4人)・大学関係(3人)
【内9名は「山形大学連携研究員」】

3 試験研究の内容と成果

(1) 第1期試験研究(H28,10,1~H29,10,6)

① 試験条件

- ※ 培養土の構成・温度・湿度等は同じ
- ※ 植え付け本数(180cm×90cm)
(12本・株間25cm/24本・株間20cm)
- ※ 人工光の有無と強弱
(なし/4,000lm/6,900lm)
- ※ 反射シートの有無

教室内に8つの比較対象試験区を設定

生育状況の比較研究

→ 最適栽培環境構築を研究

② 成果(最適栽培環境)

植え付け本数=24本(株間20cm)
人工光(LED)=4,000lm(ルーメン)使用
(可変型光源の利用)
反射シート=有

生産量が最も多く最適環境
(次期研究の基礎)

(2) 第2期試験研究(H29,10,1~H30,9,30) 第1期試験研究の成果に基づき研究教室を増設

3種類の栽培試験棟を設定

- ① 大葉栽培試験棟(1教室)
(H29,9,13~本格的準備開始)
- ② 柑橘類等栽培試験棟(1教室)
(H29,10,4~本格的準備開始)
- ③ 大葉栽培実用化棟(2教室)
(H29,9,13~本格的準備開始)



図1 大葉栽培試験棟略図

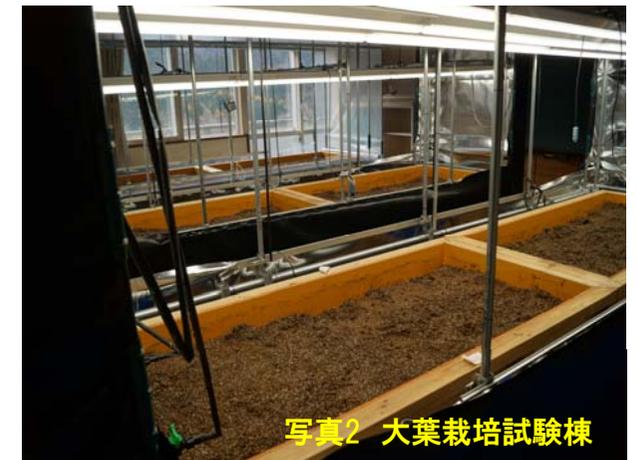


図2 柑橘類等栽培試験棟略図

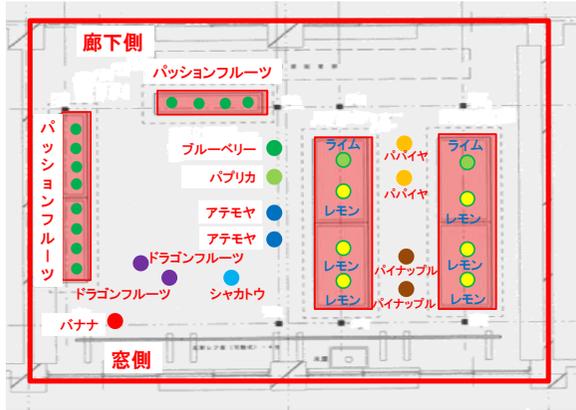


写真3 柑橘類及びその他の南国フルーツ栽培試験棟

図3 大葉栽培実用化棟略図

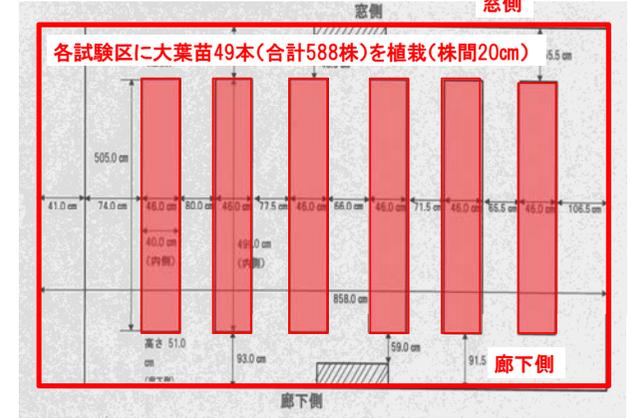


写真5 ライム・レモン



写真4 大葉栽培実用化棟

4 試験栽培作物

- (1) 大葉栽培試験棟
大葉(192株)
- (2) 柑橘類等栽培試験棟
(合計11種類・32本を試験栽培)
①レモン(6本) ②ライム(2本)
③パッションフルーツ(12本)
④ドラゴンフルーツ(2本) ⑤パパイア(2本)
⑥パイナップル(2本) ⑦バナナ(1本)
⑧アテモヤ(2本) ⑨シャカトウ(1本)
⑩ブルーベリー(1本) ⑪パプリカ(1本)
- (3) 大葉栽培実用化棟
大葉(588株)=2教室



写真6 レモンの実



写真7 パッションフルーツ



写真8 パッションフルーツの実

5 研究項目

- ① 植物育成のための最適環境構築の研究
(大葉栽培試験棟・柑橘類等栽培試験棟)
- ② 高齢者の理想的労働環境条件構築の研究
(大葉栽培実用化棟)
- ③ 効率的・合理的な栽培・収穫・出荷方法構築
の研究 (大葉栽培実用化棟)
- ④ LEDライト・有機ELライトの植物育成有効性
比較の研究 (大葉栽培試験棟)

※ 研究に必要な資材はできるだけ地域材を使用
(コスト低減と地域材の有効活用への貢献期待)

6 本試験研究から期待されること

- ① 冬期間農作物栽培環境の構築
- ② 雪国型周年農業の構築
- ③ 新たな高齢者農業の構築
- ④ 新たな就労の場の構築
- ⑤ 再生可能エネルギー有効利用方法の構築
- ⑥ 廃校利活用方法の構築
- ⑦ 本格的高齢化社会の構築
- ⑧ 農山村再生方法の提案

平成29年12月7日
山形大学

フラスクと東京化成工業、有機・無機半導体材料の製造に関する 委託契約を締結

株式会社フラスク（本社：山形県米沢市、代表取締役社長：菰田卓哉、最高技術責任者：城戸淳二、以下「フラスク」）と東京化成工業株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：浅川誠一郎、以下「東京化成工業」）は、山形大学およびフラスクで開発した有機・無機半導体材料の製造を東京化成に委託する契約を締結しましたのでお知らせします。城戸教授らは、これまで独立行政法人科学技術振興機構(JST)の大型プロジェクトである地域卓越研究者戦略的結集プログラム(2009-2014)、戦略的イノベーション創出推進プログラム(2009-)、革新的イノベーション創出プログラム(2014-)を実施し、有機ELなど有機・無機半導体材料を開発して数多くの特許を出願し、取得してまいりました。フラスクと東京化成工業は、これら特許化した材料の製造および販売を協力して行い、有機ELディスプレイメーカー、有機EL照明パネルメーカーなどに販売いたします。

・フラスクについて

山形大学で開発された、有機EL材料や有機太陽電池材料などの特許技術をベースに、有機半導体関連材料の研究開発および製造販売を行う会社として、2017年4月に株式会社フラスク (<http://flask.co.jp/>) を設立しました。フラスクは、山形大学内に開発拠点を置き、同大学の有する材料技術や研究開発力を最大限活用して、有機半導体市場で価値創造を行います。デバイスメーカーが必要とする材料や最先端の材料を最高レベルで提供する「テラーメイド材料のプロフェッショナル集団」を目指しています。

・東京化成工業について

1894年（明治27年）に浅川商店として創業、1946年（昭和21年）には化学メーカーとして現社名である東京化成工業 (<http://www.tcichemicals.com/>) に改称しました。「試薬を通じて社会貢献する」を企業理念に、研究開発用試薬を主軸とし、医薬品や化学品、電子材料等、多岐にわたる製品原料の供給をおこなっています。120年以上にわたる歴史と半世紀を優に越える製造経験、多目的に対応できる多種の設備をもち、27,000品目以上の製品を供給するとともに、お客様へのご要望に応じた受託合成もおこなっています。また、北米を始め、欧州・中国・インドにも海外拠点を置き、世界各地で事業を展開しています。

（お問合せ先）

株式会社フラスク 嵐田まり子 Mail : info@flask.co.jp
山形大学米沢キャンパス事務部研究支援課(菅井) TEL : 0238(26)3004

平成29年12月7日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 学生の事故に係る総合対策本部の対応状況について

平成29年10月24日に設置した学生の事故に係る総合対策本部の対応状況についてお知らせします。

2. 教育セミナー「山形での学びを通じたモンゴルでの教育再生」を開催します

山形大学の卒業生でもある新モンゴル学園理事長ジャンチブ・ガルバドラッハ氏をお迎えし、教育セミナーを開催します。ジャンチブ氏は、山形留学時代に愛娘が通った山形西高をモデルに、2000年、母国で高校を設立しました。現在、モンゴルを代表する進学校として、多くの卒業生を輩出しています。

日時：平成29年12月22日（金）16時30分～17時30分

場所：山形大学小白川キャンパス 基盤教育1号館112教室

※入場無料（要申込）

3. 第8回多文化交流コンサート「山形から世界へ」を開催します

山形大学に留学している学生たちが、自国の楽器や伝統舞踊を披露するコンサートを開催します。

日時：平成30年1月7日（日）13時30分～

場所：山形市市民会館 小ホール

入場料：前売500円・当日800円（高校生以下無料）

4. 理学部卒業生による「マリモ講演会」を開催します

マリモ研究の第一人者である若菜 勇さん（釧路市教育委員会マリモ研究室室長；本学理学部卒業生）を講師に迎え、講演会を開催します。

日時：平成29年12月20日（水）16時20分～17時50分

場所：山形大学小白川キャンパス理学部S401（ふすまホール）

5. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催

「大学コンソーシアムやまがた」では、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話ししていただく「やまがた夜話」を開催しています。

12月～2月は、放送大学山形学習センター所長、客員教員による教養講座です。

※詳しくはチラシをご確認ください。

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎ **第45回山形大学模擬裁判公演 『みかた』**

山形大学模擬裁判実行委員会は、年に1度「模擬裁判」という裁判劇の公演を行い、研究成果を発表しています。45年目となる今年は、「刑事責任能力」をテーマに『みかた』を公演いたします。

日 時：平成29年12月8日（金） 17：30開場／18：00開演

平成29年12月9日（土） 14：30開場／15：00開演

場 所：山形市中央公民館（a z 七日町6階）

料 金：前売り券250円／当日券300円（高校生以下は無料）

◎ **第7回「知の拠点庄内」シンポジウム～わくわく庄内暮らし～**

日 時：平成29年12月10日（日）13：30～15：50（開場12：30）

場 所：鶴岡市先端研究産業支援センター（鶴岡メタボロームキャンパス）レクチャーホール
（鶴岡市覚岸寺水上246-2）

◎ **平成29年度COC/COC+シンポジウム**

「オール山形による地域創生人材育成の今とこれから」

地域と大学の協働による人材育成に関わる基調講演や事例紹介、パネルディスカッションを通して、山形における地域創生人材の育成について考えていきます。

日 時：平成29年12月15日（金）13：00～16：20

会 場：山形国際ホテル

平成29年12月7日
山形大学

学生の事故に係る総合対策本部の対応状況について

山形大学では、小白川キャンパス内において発生した学生の死亡事故を受け、学長を本部長とする総合対策本部を平成29年10月24日に設置しました。
対策本部では、大学全体として再発防止対策及び学生のケアに取り組むため、全学をあげて対応に取り組んでいます。

総合対策本部での対応状況

平成29年12月4日現在

対応事項	現況
学生事故防止のための学部説明会	11月22日（水）～12月6日（水）開催 （6学部・1機構） 12月13日（水）教育研究評議会において実施報告
学長メッセージの配付状況	未確認学生 4.1%（人文，地教，理） (12月1日現在)
学生生活チェックシートによる問診	チェックシートの配付状況 71.2% (12月1日現在)
保護者メッセージへの問合せ等	11月10日（金）保護者へメッセージを郵送 問合せ件数 電話5件，メール5件 (12月1日現在)
LINEによる相談窓口の設置	11月6日～17日に試行的に開設 問合せ7件 →窓口継続（平日の8:30～17:00）

（お問合せ先）
総務部長 矢作 清
電話 023-628-4002

山形大学卒業生
新モンゴル学園理事長 熱く語る！

山形での学びを通じた モンゴルでの教育再生

山形西高
をモデルに



2000年、新モンゴル学園ジャンチブ理事長（左）は、苦学の山形留学時代に愛娘が通った山形西高をモデルに母国で高校を設立。

以来、モンゴルを代表する進学校として、知・徳・体のバランスを備えた卒業生を輩出。うち約3割の卒業生は、留学生として山形大学を含む世界の大学で学んでいます。

特に、高校生に大きな夢を描かせ、その夢の実現に向けて努力する、その教育方針は、高校生初め多くの市民の皆さんの生き方の参考になると思います。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

2017年12月22日（金）16:30～17:30

■会場：山形大学小白川キャンパス

基盤教育1号館112番教室

■入場無料（会場整理の都合上、裏面によりお申込みください）

教育セミナー主催：  山形大学

<講師略歴>

新モンゴル学園 理事長・教育学博士 ジャンチブ・ガルバドラルハ氏

- 1963年 モンゴル・アルハンガイ県生れ
- 1986年 モンゴル国立大学物理学部 卒業
- 1986年～1995年 モンゴル等において教員・研究員として活躍
- 1996年～1997年 山形大学・教員研修生（国費留学）
- 1997年～1999年 山形大学大学院教育学研究科修士課程（修了）
- 1999年～2003年 東北大学大学院教育学研究科博士課程（退学）
- 2000年 新モンゴル高校設立（山形西高をモデルに）、2008年までに小中高一貫校に発展
- 2014年 新モンゴル工科大学・高専設立、高専は日本の工業高等専門学校をモデルに
- 2015年 山形大学と交流協定締結 ※他の国内有力大学・高専とも交流
- 2016年 新モンゴル子ども園設立

参加申込書

必要事項をご記入の上、Eメール、ファックスまたは郵送によりお申込みください。Eメールの場合は、以下の事項をメール本文でお知らせいただいてもかまいません。

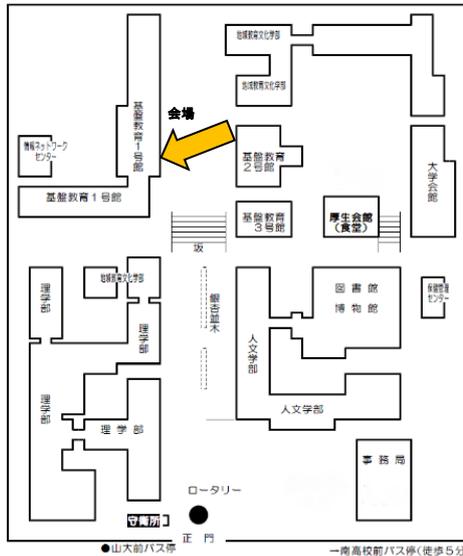
なお、学校・団体等参加の場合は、代表の方からの一括申込みも可能です。

- ①Eメール : rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- ②ファックス : 023-628-4491（送信メモ不要）
- ③郵送先 : 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学国際交流課あて

貴学校・団体・会社等名	
ご参加（代表）者名	
ご参加（代表）者TEL またはメールアドレス	
ご参加者数	

ご記入の個人情報は、適正に管理のうえ当セミナー運営以外の目的に使用することはありません。

<小白川キャンパスマップ>



※駐車スペースが限られています。公共交通機関等にてご来場ください。

【お申込み・お問合せ先】

山形大学教育・学生支援部国際交流課モンゴルセミナー事務局
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL : 023-628-4018 FAX : 023-628-4491

Eメール : rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形 から 世界へ

第8回

多文化交流
コンサート

PROGRAM

世界各国の留学生による
伝統楽器、ダンス、歌など

参加国

モンゴル、インド、マレーシア、
ブルネイ、タイ、中国、台湾、
カナダ、インドネシア、
西アフリカ・ベナン、
イギリス等

2018.1.7(日)

Open 13:00

Start 13:30

山形市市民会館
小ホール

前売券 ¥500

当日券 ¥800

(高校生以下無料)

主催：山形大学 基盤教育企画部

協賛：株式会社吉田金物店

問い合わせ：山形大学 尤 銘煌（ユウ ミンホアン） E-MAIL : freddyuu@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

*参加者の事情により、当日にスケジュールが変更になる場合もございます。

第8回「山形から世界へー多文化交流コンサート」プログラム

1. インド舞踊
2. インドネシア伝統ダンス
3. 台湾琵琶演奏
4. タイダンス
5. 南京玉すだれ
6. ブルネイ・マレーシア民族ダンス
7. 台湾：歌
8. モンゴル馬頭琴
9. 中国笛演奏
10. 花笠踊



日時：2018.1.7(日)13:00 open 13:30pm~start 場所：山形市市民会館 小ホール

入場料：前売 500 円・当日 800 円（高校生以下無料）

主催：山形大学 基盤教育企画部 協賛：株式会社 吉田金物店

お問い合わせ：尤 銘煌（ユウ ミンホアン）

E-mail: freddyuu@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

マリモ発見 120年

マリモ講演会

演題：マリモの保全活動を通じて学んだこと

世界で唯一のマリモ研究者

釧路市教育委員会生涯学習部マリモ研究室室長

若菜 勇氏

山形大学理学部 昭和58年卒業

山形大学大学院理学研究科 昭和60年修了

平成29年12月20日(水)

16時20分～17時50分

理学部棟S401教室(ふすまホール)

定員180名 (山形大学の学生・教職員／一般市民)

入場無料ですが、下記へ事前にお申し込みください

【お申し込み先】

山形大学理学部事務室 (総務担当：丹野)

☎ 023-628-4502

Fax 023-628-4510

E-mail risoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

必要事項

- ・ 学校・団体・会社等名
- ・ 参加(代表)者名
- ・ 参加(代表)者の電話番号またはメールアドレス
- ・ 参加人数

マリモの
特別展示会
開催!

12月18日(月)13:00

↓

12月21日(木)11:00

サイエンスプロムナード

主催：山形大学理学部 後援：山形大学校友会(卒業生人財バンク活用事業)



若菜 勇氏 (わかな いさむ)

講師略歴

岩手県水沢市（現・奥州市）生まれ
昭和58年 山形大学理学部生物学科卒業
昭和60年 山形大学大学院理学研究科修了（理学修士）
平成 3年 北海道大学大学院理学研究科修了（理学博士）
平成 3年から阿寒町教育委員会において学芸員として
特別天然記念物「阿寒湖マリモ」の保護を目的とした
研究・教育にあたる

現在、釧路市教育委員会マリモ研究室室長
として阿寒湖畔エコミュージアムセンターで
学芸員業務を担当

講演要旨

「マリモの保全活動を通じて学んだこと」

20世紀を通じて衰退を続け、絶滅の可能性が懸念されていた特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」の保全対策の確立を求められて、1991年に阿寒湖に学芸員として赴任しました。以来、「調査研究」「教育普及」「保護管理」の3つを指針として業務を幅広く展開しています。「神秘の生物」とも称されるマリモの生態は謎に包まれ、当初は暗中模索を余儀なくされましたが、減少原因、生長条件、保全対象の明確化、生態と形態が多様化する機序、球形化の機序といった一連の調査研究課題を一つ一つクリアする中で、生物としての実態が少しずつ明らかになってきました。こうした基礎的な知見を整えた上で、保全対策を実行に移すための組織の立ち上げや、その担い手を育成するためのプログラムの構築といった体制整備を進め、ようやく「マリモの保全」というゴールが見通せるようになりました。

どこにも答が用意されていない状況で、どうやって目標達成のための課題を設定し、解決するのか。国内外の多くの共同研究者や市民ボランティアとの協働を通じて学んだ「グローバルに考え、ローカルに活動する」実践例を紹介したいと思います。



地元中学生による水上マリモ観察会



直径34cmの巨大マリモ

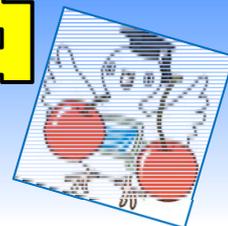


地元小学生によるマリモ観察会

やまがた夜話

放送大学

放送大学山形学習センター教養講座



12月20日(水) 「ライフサイクルからみる思春期・青年期のメンタルヘルス」

18:30~19:30 講師：佐藤 宏平 氏（放送大学客員准教授／山形大学准教授・地域教育文化学部担当）
・ ライフサイクルの観点から、思春期、青年期の特徴と、この時期のメンタルヘルスの問題についてお話したいと思います。

1月10日(水) 「植物性プラスチックって何？」

18:30~19:30 講師：栗山 恭直 氏（放送大学客員教授／山形大学教授・理学部担当）
・ 最近、植物性プラスチックあるいはバイオプラスチックという言葉を見たり聞いたことはありませんか。植物からプラスチックを作るのです。どんなものか説明します。

1月11日(木) 「ことばの音に耳を澄ます」

18:30~19:30 講師：冨田 かおる 氏（放送大学客員教授／山形大学教授・人文社会科学部担当）
・ 爺：最近の蚊は鳴かない。 婆：高域音を捉えなくなったね。
爺：じゃ外国語でも聴いて鍛えよう。 婆：いいね。

1月31日(水) 「西郷隆盛と日本人」

18:30~19:30 講師：山本 陽史 氏（放送大学客員教授／山形大学教授・EM部担当）
・ 主に戊辰戦争時の庄内藩とのかかわりなど山形との縁も含め、日本人にとっての西郷隆盛はいかなる存在かを考察します。

2月 7日(水) 「『論理的に記述する』とは？」

18:30~19:30 講師：下平 裕之 氏（放送大学客員教授／山形大学教授・人文社会科学部担当）
・ 自分の意見を論理的に述べるためにはどのようなことが必要かを、論理的思考のモデルを使いながら考えます。

2月14日(水) 「みなさん知ってますか？このマーク！」

18:30~19:30 講師：千葉 登 氏（放送大学客員准教授／山形県立保健医療大学准教授）
・ 皆さんは街中にある様々なマークとその意味をご存知でしょうか？
医療福祉に関連のあるマークについて一緒に学びましょう！

2月21日(水) 「福島第一原発事故後5年間の山形県の放射線環境の推移」

18:30~19:30 講師：櫻井 敬久 氏（放送大学山形学習センター所長／山形大学名誉教授）
・ 2011年3月11日の東日本大震災に伴う福島第一原発事故により放出された放射性物質は山形県にも影響を与えた。山形大学および山形県の5年間の継続観測と調査結果に基づいて放射線環境の推移についてお話します。

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民
定員:50名 **入場無料**

お申し込み 電話又はチラシ裏面の参加
申込書に必要事項を記入の
上Fax, 郵送、メール等でお
申し込みください。

主催

大学コンソーシアムやまがた



大学コンソーシアムやまがた

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階
TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820
E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp





FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前々日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。
	<input type="checkbox"/> 平成29年12月20日(水) 講師: 佐藤 宏平 氏
	<input type="checkbox"/> 平成30年 1月10日(水) 講師: 栗山 恭直 氏
	<input type="checkbox"/> 平成30年 1月11日(木) 講師: 富田かおる 氏
	<input type="checkbox"/> 平成30年 1月31日(水) 講師: 山本 陽史 氏
	<input type="checkbox"/> 平成30年 2月 7日(水) 講師: 下平 裕之 氏
	<input type="checkbox"/> 平成30年 2月14日(水) 講師: 千葉 登 氏
<input type="checkbox"/> 平成30年 2月21日(水) 講師: 櫻井 敬久 氏	
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820

E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp